

第 3 回 石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会

2025年8月8日

第2回検討委員会グループワーク結果

グループA

あり方（目的）	優先順位	必要な機能
①後継者の確保・育成 体験学習 （目的）を どう実現する ための計画	馬屋町地区	・舞や奏楽などを体験できる【体験機能】 ・各神楽団体の情報を得ることができる【情報発信機能】 ・ものづくりの体験や見学をすることができる【体験機能、学習機能】 ・舞の練習ができる【舞殿機能】
②保持演目の伝承 人形 石見保		・舞の練習や上演ができる【舞殿機能】 ・夜明け舞を行うことができる【舞殿機能】 ・舞（動き）をデジタル化し、複製することができる【調査・研究機能】
③市民の誇りの醸成 振. 協力 不可		・石見神楽や神楽産業の歴史や変遷を学ぶことができる【学習機能、展示機能】 ・石見神楽についてわかりやすく学ぶことができる【学習機能、展示機能】
④石見神楽の魅力を広く伝播 石見を 発信		こまごま づい →教育 ・関連施設でのイベント等の情報が相互に発信ができる【情報発信機能】 ・誘客のための企画運営を充実できる【情報発信機能】
⑤用具等の散逸の防止		・散逸する可能性がある神楽の用具等を保存・収蔵することができる【収蔵機能】 石見の ため に 必 ず さ る よ う に
⑥調査・研究の充実		・研究材料が身近にあり、効率的に研究できる【展示・収蔵機能】 ・石見神楽のルーツや関連するモノ・コト・ヒトの文化的価値を検証することができる【調査・研究】
情報・ネットワークの 中心・マッチング		社中 の 情 報 を 得 る こ と ・コネクトできる人材（学生） ・感動を演出 ・交流できる場所・数 オール 決 断
最新のデジタル 技術		・感動を補佐する技術 ・照明 ・プロジェクション コネクト する 人 材 ターゲット選定 情報・ネット ワークの 中心

第2回検討委員会グループワーク結果

グループB

あり方（目的）	優先順位	必要な機能
①後継者の確保・育成	●	・舞や奏楽などを体験できる【体験機能】 ・各神楽団体の情報を得ることができる【情報発信機能】 ・ものづくりの体験や見学をすることができる【体験機能、学習機能】 ・舞の練習ができる【舞殿機能】 喜望 喜望の会
②保持演目の伝承	●	・舞の練習や上演ができる【舞殿機能】 ・夜明け舞を行うことができる【舞殿機能】 ・舞（動き）をデジタル化し、複製することができる【調査・研究機能】 減少 喜望 喜望の会 どう活用するか ダンス アトラクション、運営
③市民の誇りの醸成	●	・石見神楽や神楽産業の歴史や変遷を学ぶことができる【学習機能、展示機能】 ・石見神楽についてわかりやすく学ぶことができる【学習機能、展示機能】 ストーリーをわかりやすく伝える
④石見神楽の魅力を広く伝播	● ● ● ● ●	・市内の神楽関連施設でのイベント等の情報が相互に発信ができる【情報発信機能】 ・誘客のための企画運営を充実できる【情報発信機能】 何度来たいと思える、国内外ステージ、一大イベント 歴史として
⑤用具等の散逸の防止	● ● ● ● ●	・散逸する可能性がある神楽の用具等を保存・収蔵することができる【収蔵機能】 ものづくり技術を活用、楽物品の管理、登録や写真、動画
⑥調査・研究の充実	● ● ● ● ●	・研究材料が身近にあり、効率的に研究できる【展示・収蔵機能】 ・石見神楽のルーツや関連するモノ・コト・ヒトの文化的価値を検証することができる【調査・研究】 全国の神楽との比較、学芸員
地域との連携 一休庵 おもしろ楽子場所	● ● ● ● ●	・地域との連携 ・既存の観光資源 ・場所も重要 この中に神楽、このコトが
目標未定 行政・団体・個人	● ● ● ● ●	・毎日お祭りされた、休日だけじゃなく、家族で、子ども、市民が利用する、日常的に、外の人も紹介する 本物の音、聞かせる、いつも

第2回検討委員会グループワーク結果

グループC

あり方（目的）	優先順位	必要な機能
①後継者の確保・育成 <i>（目的）</i>		・舞や奏楽などを体験できる【体験機能】 ・石見神楽団体の情報を得ることができる【情報発信機能】 ・ものづくりの体験や見学をすることができる【体験機能、学習機能】 ・舞の練習ができる【舞殿機能】 ・ 作業の場があるといい！ 過程が見えろといい！ 体験 教室の開催 若者の巻き込み
②保持演目の伝承 <i>舞の伝承</i>	①舞の伝承	・舞の練習や上演ができる【舞殿機能】 ・夜明け舞を行うことができる【舞殿機能】 ・舞（動き）をデジタル化し、複製することができる【調査・研究機能】 → もう少し 研究機能 「神楽をしているのを見せる」 ↓ 「本来の舞を見せる」
③市民の誇りの醸成 <i>（目的）</i>	①神楽文化の伝承	・石見神楽や神楽産業の歴史や変遷を学ぶことができる【学習機能、展示機能】 ・石見神楽についてわかりやすく学ぶことができる【学習機能、展示機能】 → 人材の活用 「すていかいする」 「生の舞は必要不可欠（いかり）」
④石見神楽の魅力を広く伝播 <i>「ハブ」</i>	①情報発信 <i>「ハブ」</i>	・市内の神楽関連施設でのイベント等の情報が相互に発信ができる【情報発信機能】 ・誘客のための企画運営を充実できる【情報発信機能】 「まやうる人の重要」→「リストと人の重要」
⑤用具等の散逸の防止	①おは市民の理解 <i>（目的）</i>	・散逸する可能性がある神楽の用具等を保存・収蔵することができる【収蔵機能】 ・ 神楽を語り場が必要 → よその神楽団体 → 伝統と団体との交流
⑥調査・研究の充実		・研究材料が身近にあり、効率的に研究できる【展示・収蔵機能】 ・石見神楽のルーツや関連するモノ・コト・ヒトの文化的価値を検証することができる【調査・研究】 → 商業的にするものとは違う！ （神楽） お金をかせげる！ （必要）
同業者も見たい <i>（目的）</i>		

保存・伝承拠点のあり方の整理

保存・伝承拠点のミッション（使命、意義）

ミッション

内容

①後継者の育成・確保

石見神楽の舞い手、楽人、ものづくり職人などの後継者育成につながる

②舞（保持演目）や文化の伝承

浜田の神楽社中の保持演目を将来にわたり舞うことができる
石見神楽文化を後世に正確に伝承する

③市民の誇りの醸成

「石見神楽を創り出したまち浜田」を市民が正しく理解し、誇りにつながる

④情報のハブ

石見神楽に関する情報や人が集まり、拠点を中心に広がっていく
石見神楽に関する各地への案内も行う

⑤魅力の発信

より多くの市民や市外の人に石見神楽の魅力が伝わる

⑥用具や資料の保存・収蔵

市内にある貴重な石見神楽に関する用具や資料を保存し、散逸を防ぐ

⑦調査・研究

石見神楽に関する調査・研究を行い、価値を明確化することができる

保存・伝承拠点のあり方の整理

保存・伝承拠点のビジョン・コンセプト（めざす姿）

—石見神楽のすべてがわかる、浜田市民が誇れる拠点—

この拠点は、浜田の宝である**石見神楽**を「守り」「伝え」「未来へつなぐ」ために、市民一人ひとりにとって身近で親しみやすい場所を目指します。そして、**地域の誇りとして、内外に自信を持って紹介できる拠点**をつくります。

拠点の中心的な役割は、石見神楽の舞・楽人・用具などやそれらを構成する石見神楽文化の保存・継承です。そのためには**後継者の確保・育成**が不可欠です。子どもや若者が憧れ、「カッコいい」と感じるような体験、学びの場を整え、石見神楽の舞や文化を継承する人材を地域全体で育てます。

そのため、学芸員等による調査・研究にも取り組み、文化としての厚みを蓄積し、それを基にした石見神楽を深く知ることができる**体験・学習プログラム**や**展示等**を通じて、市民が「石見神楽を創り出したまち浜田」を正しく理解し、誇りを持つきっかけを提供します。

さらに、市内の神楽団体、ものづくり職人、観光関係者、学校、行政などと連携し、**情報や人のつながりが集まり・広がる「情報のハブ」としての機能**を担います。石見神楽に関する最新情報や知見が行き交うことで、浜田市の地域振興を支えるエンジンとなります。

第一のターゲットは浜田市民です。市民自身が石見神楽を学び、楽しみ、日常的に関わることで、来訪者に自然と紹介したくなるような循環を生み出します。**文化振興と観光振興が一体となった「市民発の魅力発信」**がここから始まります。

石見神楽文化の保存・伝承という目的を大切にしながらも、**持続可能な収益性確保の仕組み**も工夫していきます。

保存・伝承拠点として必要な機能の整理

①収集・保存機能

石見神楽に関する資料・用具・記録などの収集を体系的に集め、後世に伝えるために適切に保存・管理する機能

- 衣裳・面・蛇胴などの神楽用具や資料・写真・映像・音声などを収集し、デジタル化も含めて記録する。
- 社中の保持演目や地域ごとの特色、演者の証言などをアーカイブ化し、いつでもアクセス可能な形で保存する。
- 保管・展示可能な環境を整備し、資料の劣化を防ぐ。

②調査研究機能

石見神楽に関する専門的な知見を蓄積し、地域や社会に還元する機能

- 歴史的背景、演目構成、地域的な違い、用具の技術・素材などを専門家や学芸員が継続的に調査・研究する。
- 大学や研究機関との連携により、外部の知見も取り入れながら研究基盤を構築する。
- 石見神楽に関する古い用具等の価値を明らかにする。

※●は各機能における取組方針（案）で今回委員会の意見を踏まえ、修正を行っていく

保存・伝承拠点として必要な機能の整理

③展示機能（体験・学習）

市民や来訪者が石見神楽の魅力と奥深さを多角的に理解できるように表現・公開する機能

- 常設展示と企画展示を組み合わせ、何度訪れても発見がある構成とする。
- 解説やナビゲーションには多言語対応や子ども向けの視点も取り入れ、幅広い層に対応する。
- 実物資料とデジタルを活用した展示を組み合わせる。
- 研究成果を展示や教育、出版、ウェブ等で発信し、広く活用する。
- 実物資料や映像、音、ストーリーパネルなどを活用し、舞や奏楽に加えて裏方の職人技にも焦点を当てた展示を行う。
- 見るだけでなく、臨場感があったり、触れたり聴いたり五感で体験することのできる展示とする。

④教育・普及機能

市民の理解と誇りを育み、次世代への伝承につなげる機能

- 子どもや若者が石見神楽に親しむワークショップや体験教室を開催し、演じる・作る・知る機会を提供する。
- 学校教育と連携し、ふるさと郷育として石見神楽（継承する人物など）を取り扱う際のサポートをする。
- 子どもだけでなく大人に向けた解説講座や公開練習なども展開し、世代を超えた普及を図る。
- SNSやメディアを通じて、石見神楽の「かっこよさ」やストーリー性を発信し、特に若年層の関心を喚起する。
- 石見神楽の要素を活かした商品開発や映像・アートとのコラボレーションなどにより、裾野の拡大を図る。

※●は各機能における取組方針（案）で今回委員会の意見を踏まえ、修正を行っていく

保存・伝承拠点として必要な機能の整理

⑤伝承機能

「伝統的な舞の文化」や石見神楽団体、石見神楽関連産業、ものづくり技術を後世に伝承する機能

- 各神楽団体において古くから継承されている伝統的な舞を後世に伝承する。
- 夜明け舞など多くの演目を舞うことができるための環境を整備する。
- 石見神楽団体、石見神楽関連産業の後継者を育成・確保するための取組を行う。

⑥交流機能

人と人、人と文化をつなぎ、石見神楽を通じた地域内外のネットワークを築く機能

- 地元神楽団体の交流や合同公演、体験イベントを通じて相互理解を進める。
- 舞殿や工房など、来訪者と演者・職人が出会う場を設け、日常的な交流を生み出す。
- 拠点自体が石見神楽に関する情報のハブとして機能し、各地の活動や知見が集まり、共有・発信される場となる。
- 他地域や異分野とのコラボレーションや、新たな担い手が創造的に関われるフィールドを提供し、石見神楽の新たな挑戦と誇りを生み出す。
- 石見神楽に関わる技術や資源を活用したビジネス化・観光化を図り、地域経済の活性化にも寄与する。

※●は各機能における取組方針（案）で今回委員会の意見を踏まえ、修正を行っていく

検討スケジュール

回	開催日時	内容（案）
第1回 ※委託業務外	5月29日（木） 18:30～	会長・副会長の選任、石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の検討事項 石見神楽の保存・伝承拠点に必要と考える機能や展示・活用方法等についての意見交換
第2回	7月11日（金） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①拠点のあり方、必要な機能についての意見交換 （第1回の意見交換を踏まえて）
第3回	8月8日（金） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①拠点のあり方、必要な機能や内容の整理・共有 （第2回の意見交換を踏まえて） ②拠点の活用に関する意見交換（グループワーク） （展示、教育・普及、伝承・交流）
第4回	9月19日（金） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①拠点の活用に関する意見交換（全体会議方式） （第3回の意見交換を踏まえて） （展示、教育・普及、伝承・交流）
第5回	10月16日（木） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①第4回検討会の意見を踏まえた修正案の共有 ②拠点の活用に関する意見交換（全体会議方式） （収集・保存機能、調査研究機能）
第6回	11月18日（火） 18:30～	基本構想の方向性について意見交換：①第5回検討会の意見を踏まえた修正案の共有 ②運営方式・運営体制に関する意見交換（全体）
第7回	12月9日（火） 18:30～	基本構想案について意見交換 基本構想案に関する修正事項等について
第8回	第7回の検討状況 に応じて開催	基本構想案の最終調整・了承

第3回

石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会 グループワーク

保存・伝承拠点の機能ごとに
目標の実現に向け
取組方針を検証し、実施手法など
を考えて提案する

Aグループ

機能	目標及び取組方針（案）・実現手法（案）	
展示機能 市民や来訪者が石見神楽の魅力を奥深さを多角的に理解できるように表現・公開する機能	【目標】 石見神楽の全てがわかり、「石見神楽を創り出したまち浜田」を正しく理解し、市民が誇りを持つ	
	【取組方針（案）】 ● 常設展示と企画展示を組み合わせ、何度訪れても発見がある構成とする。 ● 解説やナビゲーションには多言語対応や子ども向けの視点も取り入れ、幅広い層に対応する。 ● 実物資料とデジタルを活用した展示を組み合わせる。 ● 研究成果を展示や教育、出版、ウェブ等で発信し、広く活用する。 ● 実物資料や映像、音、ストーリーパネルなどを活用し、舞や奏楽に加えて裏方の職人技にも焦点を当てた展示を行う。 ● 見るだけでなく、臨場感があったり、触れたり聴いたり五感で体験することのできる展示とする。	【実現手法（案）】 ● 企画展示室の確保 ● 基本ターゲット（子ども・大人？） ● 多言語解説 ● 面、衣裳、蛇胴など神楽用具の実物の展示 ● デジタル技術（タブレットやスマートフォン）を使用した展示 ● 舞台裏を支える人々に着目 ● 製作過程の展示、制作場所の映像 ● エピローグでの臨場感ある体験 ● 実際に面にさわったり、太鼓を叩いてみたりという作る・演じるの疑似体験

Bグループ

機能	目標及び取組方針（案）・実現手法（案）	
教育・普及機能 市民の理解と誇りを育み、次世代への伝承につなげる機能	【目標】 学校のふるさと郷育などで利用できるとともに、市民が何度も利用する	
	【取組方針（案）】 ● 子どもや若者が石見神楽に親しむワークショップや体験教室を開催し、演じる・作る・知る機会を提供する。 ● 学校教育と連携し、ふるさと郷育として石見神楽（継承する人物など）を取り扱う際のサポートをする。 ● 子どもだけでなく大人に向けた解説講座や公開練習なども展開し、世代を超えた普及を図る。 ● SNSやメディアを通じて、石見神楽の「かっこよさ」やストーリー性を発信し、特に若年層の関心を喚起する。 ● 石見神楽の要素を活かした商品開発や映像・アートとのコラボレーションなどにより、裾野の拡大を図る。	【実現手法（案）】 ● 担い手やプログラムの構築 ● 体験場所（練習場や工房）の確保 ● コンテンツの作成、担い手の確保 ● 専門家との連携、コーディネーターの確保

Cグループ

機能	目標及び取組方針（案）・実現手法（案）	
伝承機能 「伝統的な舞の文化」や石見神楽を後世に伝承する機能	【目標】 石見神楽文化・舞や道具に関する技術の伝承、企業・団体の伝承（後継者の確保・育成）	
	【取組方針（案）】 ● 「石見神楽文化」を明確化し、石見神楽を取り巻く歴史やマナーなどが学べる ● 各神楽団体において古くから継承されている伝統的な舞を後世に伝承する。 ● 夜明け舞など多くの演目を舞うことができるための環境を整備する。 ● 石見神楽団体、石見神楽関連産業の後継者を育成・確保するための取組を行う。	【実現手法（案）】 ● 展示機能の中で検討 ● いつでも練習ができる場の確保 ● 展示や教育・普及機能の中で検討
交流機能 石見神楽をネットワークを築く機能	【目標】 多くの市民、市外の方に石見神楽の魅力を知ってもらう	
	【取組方針（案）】 ● 地元神楽団体の交流や合同公演、体験イベントを通じて相互理解を進める。 ● 舞殿や工房など、来訪者と演者・職人が出会う場を設け、日常的な交流を生み出す。 ● 拠点自体が石見神楽に関する情報のハブとして機能し、各地の活動や知見が集まり、共有・発信される場となる。 ● 他地域や異分野とのコラボレーションや、新たな担い手が創造的に関われるフィールドを提供し、石見神楽の新たな挑戦と誇りを生み出す。 ● 石見神楽に関わる技術や資源を活用したビジネス化・観光化を図り、地域経済の活性化にも寄与する。	【実現手法（案）】 ● 伝統的な舞を可能な限り、伝統的な空間で見せることができる場 ● 新しい挑戦をみせることができる場 ● 交流などを促進するレセプションルームなどの確保 ● 民間企業等と連携